

2016-B		VI47-B			
拠出金・基金 の名称		国際農業研究機関拠出金／国際熱帯農業研究所(IITA)			
種 別		☒ イヤマークのみ ☐ 一部イヤマーク			
【拠出先の国際機関名】国際農業研究協議グループ(CGIAR)／国際熱帯農業研究所(IITA)					
【所管官庁担当局課・室名】 農林水産省大臣官房国際部海外投資・協力グループ／農林水産技術会議事務局国際研究官室					
【当該任意拠出金の目的・用途等】 アフリカの食料・栄養不足の改善及び農家・加工業者・消費者の生活水準の向上に貢献するため、アフリカにおいて食料及び換金作物として重要なマメ類及びイモ類の生産性の向上を目指した研究開発及びその普及を支援する。					
【最近3年間の我が国支払額及びODA率】					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レート	ODA率(%)
平成28年度	54,898	457	－	1米ドル=120円	100%
平成27年度	53,460	486	－	1米ドル=110円	100%
平成26年度	53,416	551	－	1米ドル= 97円	100%
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】 2015年に国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)では、2030年までに飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現することを掲げたが、サブサハラ・アフリカでは未だ慢性的な食料不足から、栄養不足人口の割合が最も高い地域である。そのため、換金作物として貧困削減にも資する現地の伝統的作物であるマメ類・イモ類について、持続可能な生産技術の開発を推進することは、世界の食料安全保障を確保する上でも重要である。 IITAはCGIAR傘下の研究機関であり、熱帯アフリカ地域における農業生産、食料安全保障、収入を向上させることを目的とし、従来から邦人専門家が滞在して共同研究を実施しており、マメ類やイモ類などの生産性向上に資する成果を出している。これら作物の研究蓄積を有する我が国との連携を密にすることにより、開発途上国の持続的農業の発展、さらには世界の食料供給の安定化に貢献することが重要である。 そのような中、我が国のIITAへの拠出金により、(1)ササゲ優良品種の種子生産・流通システムの開発及び高付加価値ササゲ品種の育種、(2)ヤムイモの高付加価値化、高栄養価化のためのデータベース構築及び、増産技術の普及のための技術開発を行うものであり、意義は大きい。					
【備考】					